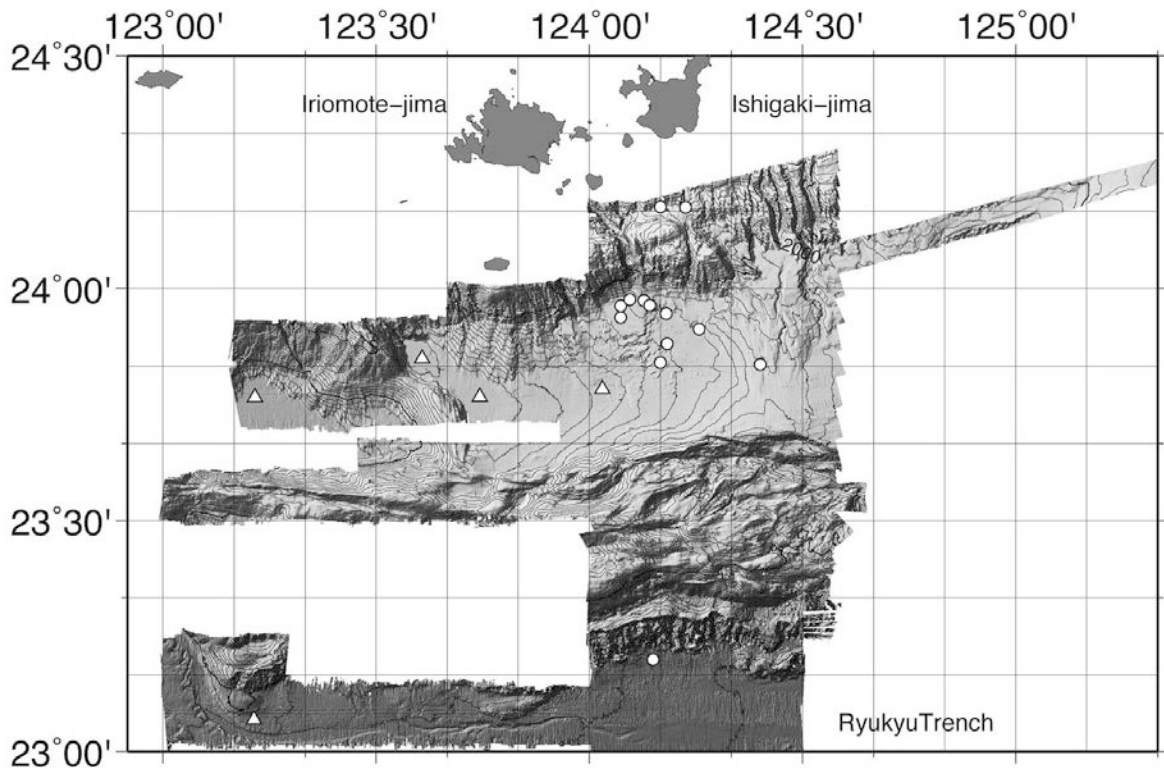


琉球海溝域海域津波履歴研究

○金松敏也（海洋研究開発機構）、池原 研・宇佐見和子・味岡 拓（産業技術総合研究所）、
宮崎征行・熊 衍昕（海洋研究開発機構）

本プロジェクトは文部科学省「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」の一環として、海底堆積物に記録された南西諸島のプレート境界巨大津波・巨大地震の再来周期を探るものである。南西諸島周辺には過去の津波・地震の記録はあるものの古文書等の情報が少ない。再来周期や津波破源域など南海トラフのそれと比べると不明な点が多く、その概要を明らかにする必要がある。今回の調査では昨年度の調査 YK15-01 に引き続き石垣島南方の海域に焦点をあてた。航海期間 13 日間のうち 6 日間が荒天避泊であったが、石垣島の前弧海盆地で 4 点、海溝軸で 1 点、沖縄本島の前弧域で 1 点を実施できた。前弧海盆地では碎屑物の供給源として石垣島、西表島などの縁辺の他、台湾からの物質供給が推定される。イベント堆積物の起源を検証するにあたり、堆積機構の背景を推定するため地形・SBP 調査を採泥と同時に進めた。地形・SBP 調査の結果、前弧海盆ではリッジに隔たれた海盆が発達している事、斜面は複雑な地形を示し沈み込みによる横ずれセンスが強く認められる事、また台湾から続く海溝にはチャンネルが認められることが分かった。本報告においては、YK15-01 および KR15-18 航海で取得した地形・SBP データを中心に航海の概要を紹介する。



図：YK15-01、KR15-16 航海で取得した海底地形図、およびコアの採取地点：○：YK15-01 航海、▲：KR15-16 航海